

キーワード： ソーシャルスキル 定時制高校 関係開始 記号化

I. 研究の背景

ソーシャルスキルは、「対人関係を円滑に運ぶための知識とそれに裏打ちされた具体的な技術やコツ」と定義されている。これまでの研究では、ソーシャルスキルの高い児童・生徒は低い児童・生徒に比べて、相手の表情を読み取る能力や自分の思いをうまく伝える能力などが高いことが指摘されている。また、ソーシャルスキルと学業成績の間に関連があることも指摘されており、学業成績の向上のためにもソーシャルスキルの向上が必要とされている。また、これまでの研究では、定時制高校では、ソーシャルスキルの中でも他者に自分から話しかけるといったスキルである関係開始や、自分の気持ちや感情を適切に言葉や文章で表現するスキルである記号化のスキルが低い実態が指摘されている。しかしながら、これまでの研究では、定時制高校生の実態は明らかにされていないが、それらのスキルを向上させるような定時制高校の実態に即した教育プログラムの開発については十分に明らかにされていない。

II. 研究の目的

本研究では、定時制高校生の関係開始のスキル向上を目指した教育プログラムを開発、実践し、開発したプログラムの効果と課題を検討することを目的とした。

III. 研究の方法

本研究は、2013 年 10 月から 11 月に、N 県 S 市の公立定時制 N 高校の 1 年生から 4 年生を対象に、ソーシャルスキルの向上を目的とした教育プログラムを開発・実施した。プログラムの開発においては、事前に対象校を訪問し、生徒の様子を観察するとともに、対象校の養護教諭に対して聞き取り調査を行い、得られた情報を参考にした。授業は、全 4 回で構成し、1 回目は自己紹介、2 回目は他己紹介・挨拶、3 回目は聞く態度、4 回目は質問の仕方に関する授業を行った。プログラムの効果は、プログラム実施の事前と事後に自記式の質問紙を用いた調査を行い、評価した。質問紙では、先行研究を参考に、成人用ソーシャルスキル自己評定尺度、自己肯定感尺度、他者肯定感尺度、自己効力感尺度、社会的支援について回答を得た。また、授業終了時に受講した生徒にリフレクションシートを配布し、生徒の理解の状況を質的に評価した。調査データの分析は、プログラムの実施前後で、ソーシャルスキルについては、総合得点と 6 つの下位尺度(関係開始(32 点)、読解(32 点)、主張性(28 点)、感情統制(16 点)、関係維持(16 点)、記号化(16 点))について評価した。さらに、心理社会的適応状態については、自己肯定感(115 点)及び他者肯定感(60 点)を評価した。データは、ウィルコクソンの符号付順位和検定を用いて比較した。

IV. 結果と考察

当日の欠席者を除いた 56 名(男子 32 名、女子 24 名)をデータ分析の対象とした。平均年齢は、男子 18.0±1.4 歳、女子 19.4±0.9 歳であった。

(1) 教育プログラムの開発

事前アンケートの結果から、定時制高校生は、公立高校生に比べて、ソーシャルスキルの得点が低いことがわかった。特に、関係開始のスキルにおいて大幅に得点が低いことが明らかになった(表 1)。この結果から、プログラムの内容としては、一般的なソーシャルスキルトレーニングの項目(挨拶、聴き方、質問の仕方、仲間の誘い方・入れ方、あたたかい言葉がけ、共感の仕方、優しい頼み方)のうち、関係開始の能力を向上させる内容を重点に置いた。具体的な内容としては、自己紹介・他己紹介、日常の挨拶、聴く態度、質問の仕方の 4 つとした。

<表 1 N 高校と公立高校のソーシャルスキルの比較>

	平均値	
	定時制 N 高校	公立高校
関係開始	11.6	20.7
読解	16.8	21.5
主張性	14.9	17.7
感情統制	7.6	9.8
関係維持	8.2	11.2
記号化	8.2	10.8

(2) 教育プログラムの実践の結果

プログラム実施後では、「関係開始」の得点にのみ有意な向上が認められた(表 2)。また、リフレクションシートの回答の分析では、1 回目の授業の実施後に、「よくわからなかった」や「つまらなかった」などと書いていた生徒が、授業終了時には、「相手の目を見ながら話すのは苦手だったけれどだんだん相手の目を見て話せるようになった」や「当たり前だと思っていたことでも普段できていなかったことがわかった」といった回答の内容の変化が認められた。一方、高学年の生徒の感想からは、学習内容が簡単すぎた等の感想が見られた。これらのことから、関係開始の能力の向上に寄与するプログラムの開発には成功したものの、今後、生徒の発達段階に応じたプログラムを開発していく必要があることが示唆された。

<表 2 授業前後の得点の変化>

	平均値		P 値
	授業前	授業後	
関係開始	11.6	14.0	0.05
読解	16.8	18.5	0.24
主張性	14.9	15.2	0.28
感情統制	7.6	7.8	0.40
関係維持	8.2	8.6	0.39
記号化	8.2	8.3	0.31
自己肯定感	56.8	60.7	0.24
他者肯定感	28.7	31.1	0.21

V. 結論

定時制高校の生徒のソーシャルスキ能力、特に関係開始の能力を向上させるためのプログラムを開発、実践した結果、関係開始の能力に有意な向上が認められた。今後は、定時制高校生の発達段階に応じたプログラムの開発が必要となることが示唆された。